ユーザーマニュアル

ANALOG PLAYER | 2.5

25 ANALOG EXPERIENCE
THE PLAYER

TAE®
True Analog Emulation

Arturia©
MUSICAL INSTRUMENTS

プログラミング:

Robert Bocquier (version 2.x)
Nicolas Bronnec
Fabrice Bourgeois
Jean-Michel Blanchet
Christian De Jong

インダストリアライゼーション:

Frédéric Brun (Arturia)
Zhao Yitian (CME)

マニュアル:

Houston Haynes
Scott Stafiej
Richard Phan (French version)
Jean-Michel Blanchet (French version)
Antoine Back (French version)
Franck Blaszczyk (French version)
生方 則孝(日本語)
笹野 健太-(日本語)
福地 智也(日本語)

デザイン:

Yannick Bonnefoy (Beautifulscreen)
Elisa Noual
Morgan Perrier

© ARTURIA SA - 1999-2010 - All rights reserved.
4, Chemin de Malacher 38240 Meylan
FRANCE
http://www.arturia.com

このマニュアルに記載されている内容は、アートリアからの予告なしに変更することがあります。このマニュアルで述べられているソフトウエアは、ライセンス許諾または機密保持契約の元で提供されます。ソフトウエアのライセンス許諾は、その合法的な使用での期間と条件を明記しています。このマニュアル中の記事、文章を、アートリアの許可なしに、購入者の個人的使用も含むいかなる目的であっても、無断転載、記載することを禁じます。

マニュアル本文内に記載されているその他の商品、ロゴ、会社名は、各社の商標または登録商標です。

マニュアル中の記事、文章を、アートリアの許可なしに、購入者の個人的使用も含むいかなる目的であっても、無断転載、記載することを禁じます。

マニュアル本文内に記載されているその他の商品、ロゴ、会社名は、各社の商標または登録商標です。

ご注意

本製品のCD-ROMはオーディオ用ではありません。一般のオーディオCDプレーヤーでは絶対に再生しないでください。大音量によって耳を痛めたり、スピーカーを破損する恐れがあります。

本製品のCDROMには不正コピーを防止するためのプロテクトがかけられています。お客様が本製品のCDROM/ソフトウエアの複製を試みた結果生じた損害についてはアートリア社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

- 本製品のCDROMを損傷したり、破損した場合、修復/交換は有償となりますのでご注意ください。
- 本製品および取扱説明書の著作権はすべてアートリア社が所有します。
- 本製品のCD-ROMを開封する前に、必ず「使用許諾契約書」をお読みください。CD-ROMを開封した時点で、使用許諾書に記載された事項をご承認いただいたことになります。
- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、公演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音し、配布、販売、貸与、公演、放送などを行うことは法律で禁じられています.
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。あなたが本製品を用いて他社の著作権を侵害しても、アートリア社ならびにアイデックス音楽総研株式会社は一切責任を負いません。
- 本製品を権利者の許諾無く賃貸業に使用することを禁じます。また無断複製することは法律で禁じられています。
- ディスクの裏面（信号面）に触れたり、傷を付けたりしないでください。データの読み出しがうまく行かないことがあります。ディスクの汚れは、市販のCD専用クリーナーでクリーニングしてください。
- 本製品は別途記載の条件を満たす標準的なコンピューターで動作を確認しておりますが、この条件下での動作すべてを保証するものではありません。同一条件下でもコンピューター固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なることをご了承願います。
- 音楽をお楽しみになる場合は、ヘッドホンをするなどしてご近所に迷惑がかからないようにしましょう。特に夜間は音量に十分注意してください。

Arturia Analog Player 2.5 / Analog Experience “The Player”!
をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

このマニュアルは 2 つの製品に関しています。

*「Analog Player 2.5」*は、1000 ものシンセサイザーサウンドをプレー、エディットが可能。

*「Analog Experience “The Player”」*は、 Analog Player 2.5 と専用のコントロールキーボード

このパッケージには以下の内容物が同梱されています。

- MAC OSX とWindows XP/Vista/7 用のインストーラーCD-ROM
- シンクロソフトのアクティベーションコード、およびアートリアオンラインの登録コードを含む、レジストレーションカード（クレジットカード状のもの）
- アナログプレイヤー2.5 及びアナログプレイヤーキーボード ユーザーマニュアル
- アナログプレイヤー・キーボード*(Analog Experience “The Player” のみ)*
- USBケーブル*(Analog Experience “The Player”のみ*

カードは慎重に保存下さい。

本ソフトウエアを使用するためにあなたは製品登録を行わなければなりません。登録することによって、あなたはご自分が正当な所有者であることを認識し、本製品の最新ニュースとアップデート情報を得ることが可能です。登録後、あなたは我々のサイトの保護エリアにアクセスするためのユーザーIDとパスワードを得られます。また、アップデートや新しい製品に関する情報を早く受け取れるように、我々のユーザー通知リストに掲載されます。

特記事項

MIDIキーボードはUSBまたは外付けACアダプターを使用します。その際、製品マニュアルに記載されている、アートリア推奨品以外は、決して使用しないで下さい。（チャプター5.2.2 に詳細がありますので参照下してさい）

警告:

本製品を人が歩く場所等に置かないで下さい。また、電源やUSB等のコード類を巻かないで下さい。

延長コードの使用はお勧め出来ません。どうしても使用しなければならない場合は、本製品を使用するのに、十分な電気容量を持つコードをご使用下さい。詳しくはお近くの電器店等にご相談下さい。

本製品に周辺機器等使用する場合は、アートリア社が提供もしくは推奨するものをお使い下さい。それ以外のものをご使用になる場合、それぞれの製品に記されている、安全上の注意をよく読んでからお使い下さい。

仕様変更について:

本マニュアルに記載されているの内容は、本マニュアル印刷後であっても、予告なしに変更される場合があり、アートリア社は仕様変更の権利を有します。

重要:

感電、破損、火事あるいは他の危険からの大怪我や死に至る可能性を回避するために下にリストアップされている基礎的な注意事項に常に従ってください。

ヘッドフォンとスピーカーの両方、またはどちらか一方を使用して、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定出来る可能性があります。長時間に及びそのような大音量や不快に感じるほどの音量で長時間音を聴かないこと。

難聴、もしくは耳鳴りなどを自覚した場合には、直ちに専門家の診断を受けること。

注意:

知識の不足による、誤った操作から発生する問題に対してのサポートは保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、ディーラーと相談してから、サポートを要求することをお勧めします。

事前注意事項は以下の通りです（但し、表記されていることに制限されるものではありません）

1. 取扱説明書を良く読んで、理解して下さい。
2. 楽器本体に表示されている指示に従って下さい。
3. 楽器や周辺機器を清掃する場合は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外して下さい。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用して下さい。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないで下さい。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないで下さい。
4. 楽器を浴室やキッチン、プールなど水気の多い湿った場所で使用しないで下さい。
5. 楽器を落下の危険性がある、不安定な場所に置かないで下さい。
6. 楽器の凹みを埋めたり、穴や隙間を塞がないで下さい。これらは、加熱から本体を守るための空気の循環用のものです。また、楽器を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に置かないで下さい。
7. 12V DC 1500MAのACアダプターのみをご使用下さい。
8. 居住地域の電源電圧が、ACアダプターの定格電圧と整合していることを確認して下さい。
9. 楽器の筐体を開けたり、異物を挿入したりしないで下さい。火災や感電の原因になります。
10. いかなる液体も楽器に吹き付けないで下さい。
11. 修理の際は正規サービスセンターに持ち込んで下さい。自身で蓋を開けたりカバーを開けると、保証の対象外となります。不正な調整は、故障や事故の原因になります。
12. 雷発生時には、楽器を使用しないで下さい。距離が離れていても感電の恐れがあります。
13. 楽器を直射日光に当てないでください。
14. ガス漏れが発生している場所付近で楽器を使用しないで下さい。
15. Arturiaは本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失にも責任を持ちません。

CD-ROMの取り扱いについて：

ディスクの光る面（データが収録されている面）に触れたり、傷つけないよう注意して下さい。傷ついたり、汚れたりしたCD-ROMは正しく読み込めなくなる場合があります。CD-ROMは綺麗な状態で保つために、市販のクリーナーなどを使用して下さい。

.

もくじ

1 イントロダクション 9

1.1 歴史 9
1.2 そして“アナログプレイヤー”が誕生しました 10
1.3 TAE®技術により忠実なエミュレーションを実現 10
1.3.1 折り返しノイズのないオシレーター 10
1.3.2 アナログシンセサイザーがもつ波形のゆらぎを忠実に再現 11
1.3.3 アナログフィルターの忠実な再現 13

2 インストール 14

2.1 WINDOWSでのインストール (XP/VISTA/7) 14
2.2 MAC OS Xでのインストール 16

3 オーサライゼーション 17

4 アナログプレイヤー2.5 を使用する 20

4.1 プリファレンス 20
4.2 ツールバー 21
4.3 プリセットマネージャー 22
4.3.1 Instrument (シンセサイザーの検索) 22
4.3.2 Type (楽器タイプの検索) 23
4.3.3 Characteristics (キャラクター別の検索) 23
4.3.4 Entries Found (検索結果) 24
4.3.5 Filter Options (フィルターオプション) 24
4.3.6 プリセット音色の情報 24
4.3.7 構成 25
4.4 キーボード画面 26
4.4.1 V仮想キーボード (鍵盤部分) 26
4.4.2 2 つのホイール 27
4.4.3 フィルター 27
4.4.4 FX MIX (エフェクトミックス) 27
4.4.5 ADSR ノブ 28
4.4.6 SNAPSHOTS buttons (スナップショットボタン) 29
4.4.7 MIDI コントロール 29

5 様々なモードでの使用方法 31

5.1 スタンドアローンとMIDIコンフィグレーション 31
5.1.1 アプリケーションを立ち上げる 31
5.1.2 初期設定の変更 31
5.2 VST 32
5.2.1 インストール 32
5.2.2 VSTインストゥルメントとして使用する場合 32
5.3 AUDIO UNIT (MAC OS X のみ) 34
5.3.1 インストール 34
7.2.2 Logic の場合 34
5.3.2 Digital Performer の場合 35
5.4 PRO TOOLS 35

5.4.1 インストール *35*
5.4.2 プラグインとしての利用 *35*

6 アナログプレイヤーキーボード (ANALOG EXPERIENCE“THE PLAYER”のみ) **38**

6.1 フロントパネル概観 38
6.1.1 キーボード *39*
6.1.2 シフトボタン *39*
6.1.3 レベル/サーチ・ロータリエンコーダー *39*
6.1.4 プリセット/オクターブ・ボタン *39*
6.1.5 スナップショット/セーブボタン *40*
6.2 ジョイスティック 40
6.2.1 ピッチベンド *40*
6.2.2 モジュレーション *40*
6.3 シンセシスセクション 40
6.3.1 フィルター制御ロータリーエンコーダー *41*
6.3.2 エフェクトミックス・ロータリーエンコーダー *41*
6.3.3 オルタネートADSR ファンクション *41*
6.4 リアパネル概観 41
6.4.1 MIDI 接続について *42*
6.4.2 Power supply *42*
6.5 基本的なMIDIコントロール 42

7 MIDI インプリメンテーション (ANALOG EXPERIENCE“THE PLAYER”のみ) **43**

7.1 キーボードの使い方 43
7.2 MIDIとは？ 43
7.3 MIDI インプリメンテーションチャート 44
7.4 MIDI コントローラーリスト 45
7.5 システムエクスクルーシブメッセージ詳細 46

8 MIDI コントロールセンター (ANALOG EXPERIENCE“THE PLAYER”のみ) **47**

8.1 MIDIコントロールセンターを起動する 47
8.2 MIDIセッティングを変更する 48
8.2.1 グローバルセッティング *48*
8.2.2 独立したコントロールセッティング *48*
8.2.3 キーボードにセッティングを保存する。 *49*

9 ご使用になる前にお読みください。 **50**

アートリア“アナログ･プレイヤー”エンドユーザー使用許諾契約書 50
9.1 FCC INFORMATION (USA) 52
9.2 CANADA 52
9.3 EUROPE 52

1　イントロダクション

1.1　歴史

2001 年初頭、アートリアはアナログ回路のオーディオ解析をデジタルエミュレーション技術で再現する先進的なアルゴリズム開発に着手しました。それは、技術的な言語を使用しなくても、かつて一世を風靡したモーグモジュラー型のようなシンセサイザーのユニークで無二なサウンドを再現できる前代未聞のものでした。そのアルゴリズムに着手してしばらく後、アートリアはその成果を世に問う準備を始めました。2002 年にカリフォルニアで開催されたNAMMショーにて、アートリアは後にボブモーグ博士からも絶賛をあびた「モーグモジュラー V」として商品化されるソフトウエアシンセサイザーのプロトタイプを発表しました。

音楽制作において常に本物のサウンドを追求しているエキスパートたちは、自分の納得できるサウンドにはとても貪欲です。モーグ博士自らがお墨付きを与えた「モーグモジュラー V」は彼らから大絶賛をあび、発売と同時に大成功をおさめ、様々な音楽誌にて賞を総なめし、ビンテージシンセサイザーの再現に関して先駆者的存在となったのです。

2004 年までの間に、アートリアには著名なミュージシャン、プロデューサー、バンドの方々から多くの電子メールが届きました。彼らの多くは自分が所有しているハードウエアシンセサイザーをバーチャル（ソフトウエア）シンセサイザーに置き換えることを計画していました。世界中のアーティスト連中がハードウエアよりもソフトウエアのアドバンテージに注目し始めたのです。

CS-80V」は、2003 年にニューヨークで開催されたAESショーにて発表されました。 それは“究極のポリフォニックシンセサイザー”として一斉を風靡したヤマハのCS-80 を完全に再現したものでした。キースエマーソン、スティービーワンダーなどの憧れの著名音楽家が愛用した本物が、無限の可能性と共に「CS-80V」として蘇ったのです。

2004 年のNAMMショーでは、世界で最も有名なシンセサイザーと誰もが認めるミニモーグを完全再現した「ミニモーグ V」がデビューしました。70～80 年代、ミニモーグサウンドはあらゆる音楽シーンで大活躍しましたが、今日でもヒップホップなどで、大いにそのウォームでファットなサウンドがフィーチャーされています。

「アープ 2600V」は 2005 年のNAMMショーにて発表されました。ドラムンベースや映画スターウォーズのR2-D2 の音などで有名なアープ 2600 を忠実に再現したのです。 さらに斬新なトラッキングジェネレーターやステップシーケンサーとの合体など、アートリアらしい商品の仕上げ方にミュージシャン、音楽業界より絶賛を浴びました。

2006 年のNAMMショーにてアートリアは 7 番目の商品として「プロフェット V」を発表しました。世界一有名なアナログポリフォニックシンセサイザーとして君臨したプロフェット 5 と、ユニークなベクター合成方式とウェーブテーブル式デジタルシンセサイザーの草分け的存在であったプロフェットVSという 2 台のシンセサイザーを合体させた強力なハイブリッドソフトシンセのアイディアは瞬く間に業界のエポックメイキングなトピックスとなりました。

2007 年夏のNAMMショーにて、アートリアは「ジュピター8 V」を発表しました。音色の可能性において、この製品はこれまでと異なる何かをアートリアのラインナップにもたらしました。「ジュピターJP8V」は実に多彩な音作りの可能性を持っています。いわゆる「ファット」な音や「透明感」のある音を容易に創造出来ます。 まさに洗練され、スマートなその外観通りに。

オリジナルの「ジュピター8」のクオリティはエレクトロ-ポップミュージックシーンはすぐ浸透しました。フランキーゴーズトゥハリウッドの「リラックス」はこれを使用して制作されました。ヴィンスクラーク、ジョンフォックスおよびマーティンウェアーらもこの楽器を使いました。ここがジュピター8が確立するステータスの出発地点でした。
ジュピター8は以下のミュージシャン使用しました。
ハワードジョーンズ、タンジェリンドリーム、アンダーワールド、ジャンミッシェル・ジャール、ディペッシュモード、プリンス、ゲイリーライト、エイドリアンリー、ヘヴンセヴンティーン、喜多郎、エルビスコステロ、ティアーズフォーフィアーズ、ヒューイルイス＆ザニュース、ジャーニー、モーグクックブック、イエス、ディーヴォ、フレディフレッシュ、シンプルマインズ、ヤンハマーetc.

1.2 そして“アナログプレイヤー”が誕生しました

“アナログプレイヤー”は上記のすべてのアナログシンセサイザーが、ベストな状態で入っています。しかも無駄の無いインターフェイスにより誰でも簡単に操作できます。画面をみてお分かりのように、「モーグモジュラー」による重厚なベース、「プロフェット 5」によるブラス、ストリングス、「アープ 2600」によるシンセパッドやサウンドエフェクトなど、あなたが欲しいと思った楽器と音の種類をパレット上で簡単に検索できるのです。

もし、あなたが本物の楽器を演奏した経験や、そのシンセサイザーについての知識が無くても、“アナログプレイヤー”のパワフルな楽器たちの音を聞けば、その違いは一目瞭然でしょう。あなたの音楽の強力なエッセンスになることでしょう。

1.3 TAE®技術により忠実なエミュレーションを実現

TAE® とは(True Analog Emulation) (トゥルーアナログ・エミュレーション)の略で、アナログ機器をデジタルで再現するための技術です。

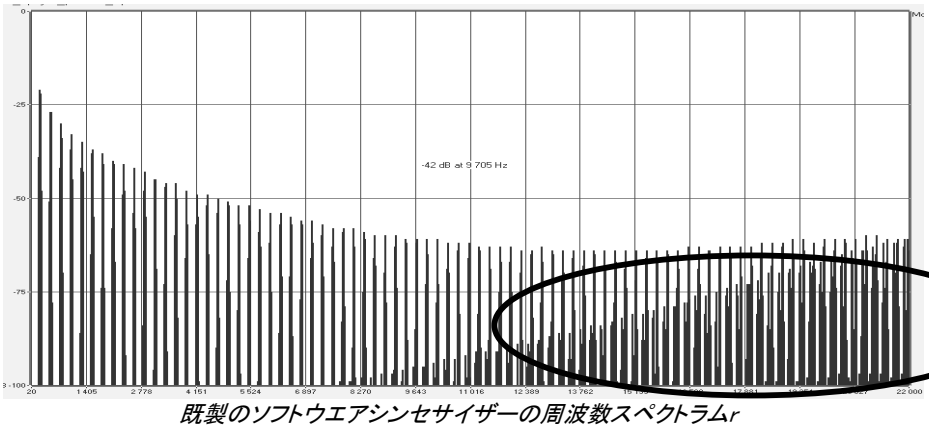
TAE® が持つアルゴリズムは、ソフトウエア上において、ハードウエアの持つスペック、特徴を忠実に再現することができます。そして、この技術こそプロフェット Vの音色クオリティーが他の追従を許さない決定的な理由であるといえます。

さらに詳しくTAE® を説明していきます。

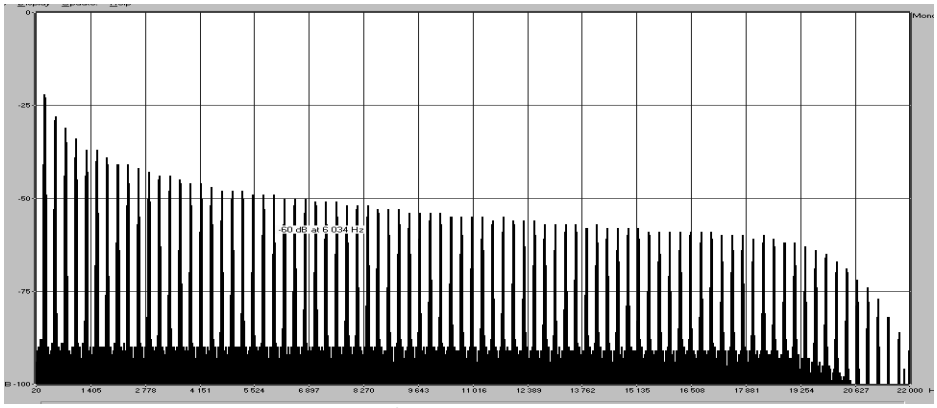
1.3.1 折り返しノイズのないオシレーター

標準的なデジタルシンセサイザーは、高周波数帯域において折り返しノイズ成分を作り出します。パルスウィズモジュレーションやフリケンシーモジュレーションを使用している場合についても同様です。

TAE® は、全ての処理(PWMやFMなど)において、折り返しノイズ成分のないオシレーター波形を CPUに余分な負担をかけることなく作り出すことが可能です。



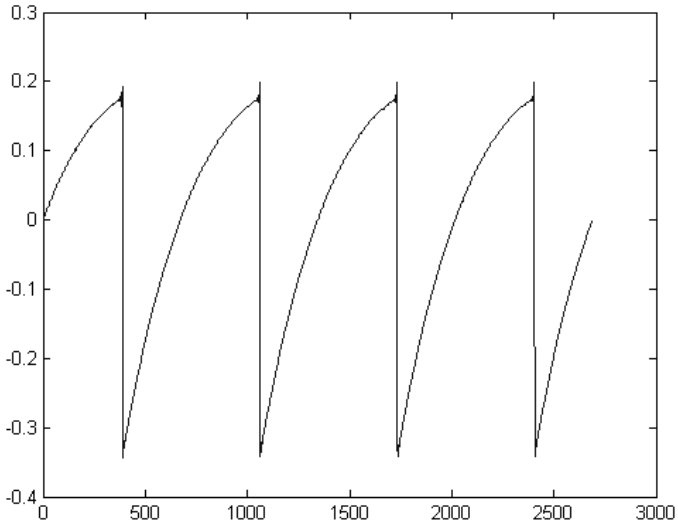
既製のソフトウエアシンセサイザーの周波数スペクトラムr



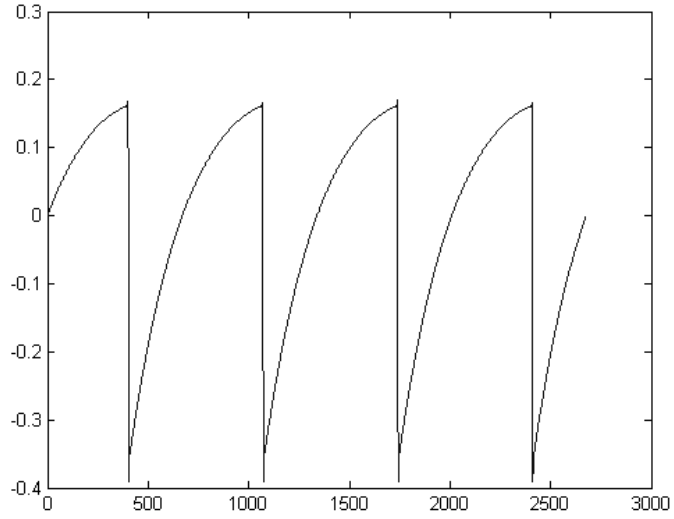
TAE® によって生成された“アナログプレイヤー”のオシレーターによる周波数スペクトラム

1.3.2 アナログシンセサイザーがもつ波形のゆらぎを忠実に再現

原型のアナログオシレーターは、コンデンサーの放電特性を使い、ノコギリ波、三角波、矩形波などの共通した波形を作り出します。これは、波形がわずかに曲がっているということを意味します。TAE®はコンデンサーの放電特性の再現を可能にしました。下図は5つのアートリアのビンテージエミュレーションソフトのオリジナルの波形分析図です。2 つの波形はともに、ローパス、ハイパスフィルターによってフィルタリングされた波形です。



オリジナルビンテージシンセサイザーの波形画像



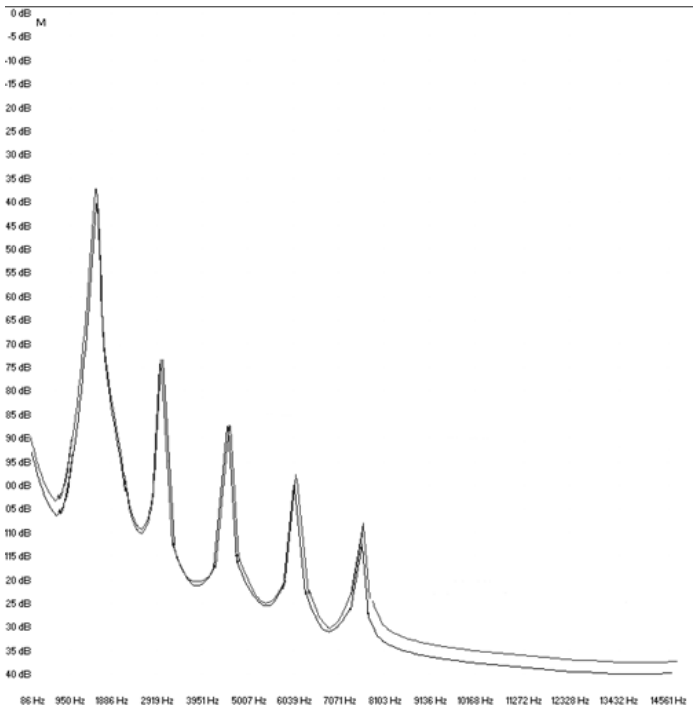
TAE® 技術による“アナログプレイヤー”の波形画像

加えて、原型のアナログオシレーターは不安定であり、波形の形状が周期ごとに微妙に異なっています。
これは、温度や、その他の環境の状態によって左右されるアナログハードウェアが持つ繊細な部分です。

TAE®は、このオシレーターの不安定な部分までも再現し、より暖かく、分厚い音色を作る出すことが可能です。

1.3.3 アナログフィルターの忠実な再現

TAE®は、アナログフィルターが持つ特徴を、どのデジタルフィルターよりも忠実に再現します。TAE®技術は、オリジナルのフィルターの特徴を再現するアルゴリズムを使用することでアナログフィルターを忠実にエミュレートします。下図のカーブは、オリジナルのビンテージシンセサイザーと“アナログプレイヤー”のTAEによるフィルターの比較図です。



オリジナルと“アナログプレイヤー”の 24dB ローパスフィルターのレスポンスカーブ

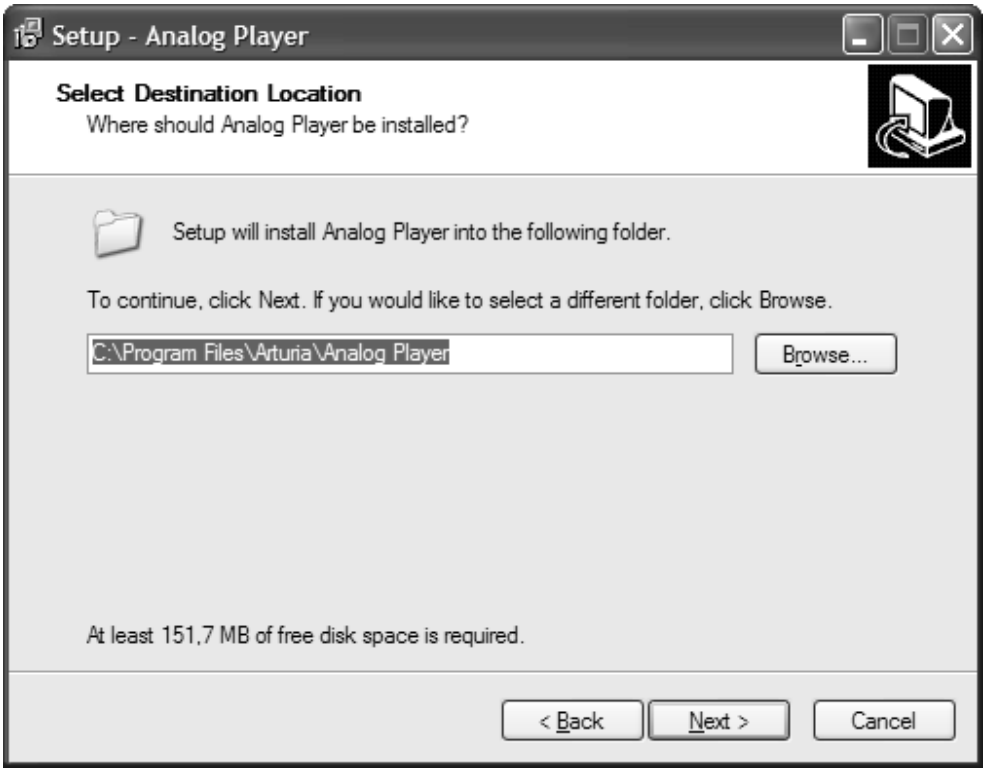
2　インストール

2.1　Windowsでのインストール（XP/VISTA/7）

CD-ROM をCD-ROM ドライブにセットしてください。エクスプローラーまたはマイコンピュータの中から「**Analog Factory 2.5 Setup.exe**」のアイコンを選択し、ダブルクリックしてください。

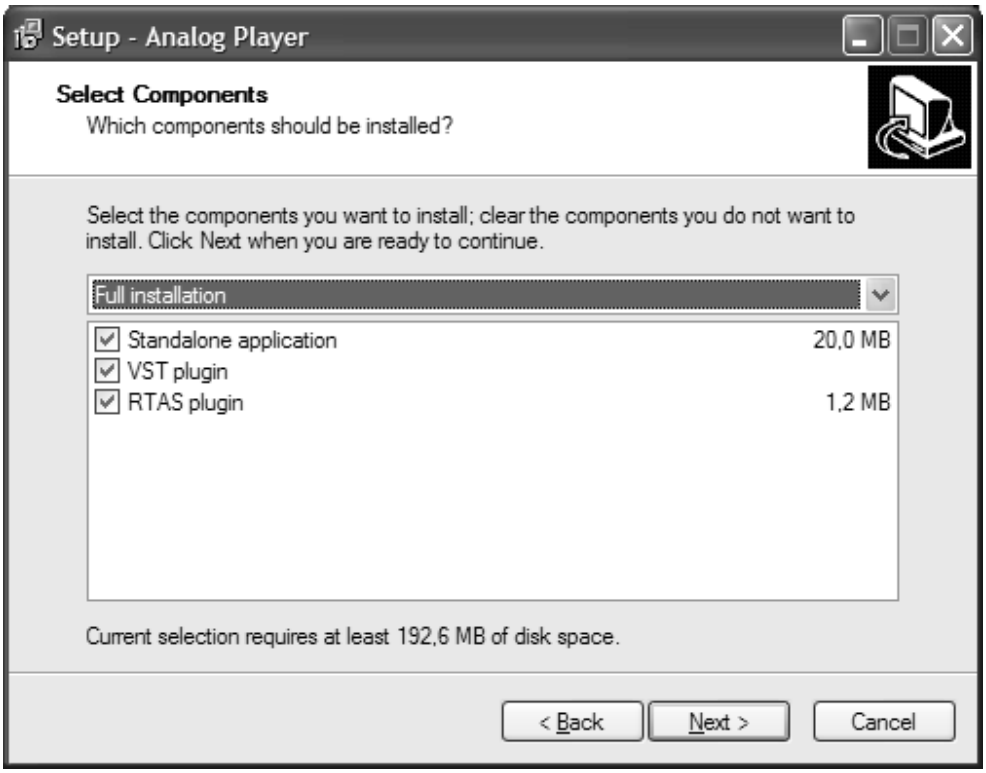
始めに「アナログプレイヤー 2.5」をどの階層にインストールするかを設定する画面が表示されます。
初期設定では「**C:¥Program Files¥Arturia¥ Analog Factory 2.5**」になっていますが、必要に応じて任意に変更することが可能です。

あなたが以前のアナログプレイヤーをすでにインストールしている場合、両方のバージョンをコンピュータ内に共存させることが可能です。以前のバージョンを使用して作られたソングは最初のバージョンが呼び出されます。



インストールフォルダーの選択

これで、スタンドアローン版のアナログプレイヤー 2.5 のインストール準備ができました。次にプラグイン版のインストール画面が表示されますので、 ここで使用するプラグインの種類を選択してください(VST, RTAS, AU)。



プロトコルの選択

VST と RTAS プロトコルでは、アナログプレイヤー 2.5 を使用するホストアプリケーションのフォルダーを選択する必要があります。これらの選択方法については 5 章をご参照ください。

VST プラグインのインストール先フォルダーの選択

以上で、インストールの手順は終了です。
インストールが完了したら、第 3 章「オーサライゼーション」に進んでください。

2.2 MAC OS Xでのインストール

アプリケーションCD-ROM をCD-ROM ドライブにセットし、デスクトップに表示された ≪Analog Factory 2.5 Setup Mac ≫ のアイコンをダブルクリックしてください。

以下のステップに従ってください。:

- エンドユーザー使用許諾書をよく読んで承認してください。
- インストール先を選択してください。

管理者のユーザーネームとパスワードを入力するダイアログが現れますので、必要な項目を入力してください。

管理者認証画面

これで、スタンドアローン版のアナログプレイヤーのインストール準備ができました。次にプラグイン版のインストール画面が表示されますので、ここで使用するプラグインの種類を選択してください(VST,RTAS/HTDM)。

以上で、インストールの手順は終了です。インストールが完了したら、第 3 章「オーサライゼーション」に進んでください

3　オーサライゼーション

Analog Player 2.5 のインストールが終了した後、本ソフトウエアの機能を充分に楽しんでいただくためにオーサライズを行う必要があります。

まずはじめに、実際にソフトウエアを使用可能にするアクティベーションコードを得るために本ソフトウエアを登録する必要があります。

Analog Player 2.5 のライセンスシリアルナンバーとアンロックコードを手元に置いてください。(これはソフトウエアの重要な部分でクレジットカードサイズの小さなプラスチックカードに印刷されています。)

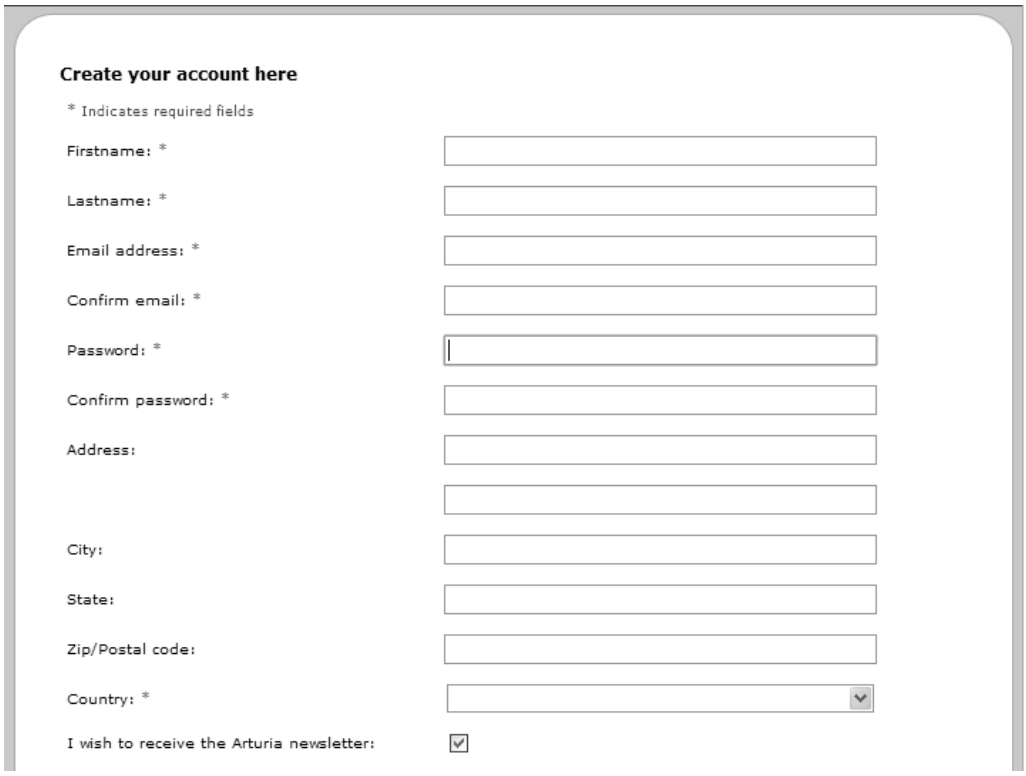
あなたのコンピューターをインターネットに接続し、下記URLのウェブページにアクセスしてください。:

http://www.arturia.com/login

Arturiaのアカウントをお持ちでない場合、最初にアカウント作成を行ってください。:

Want to create an account* ? Click here

下図のフォームに従って記入を進めてください。

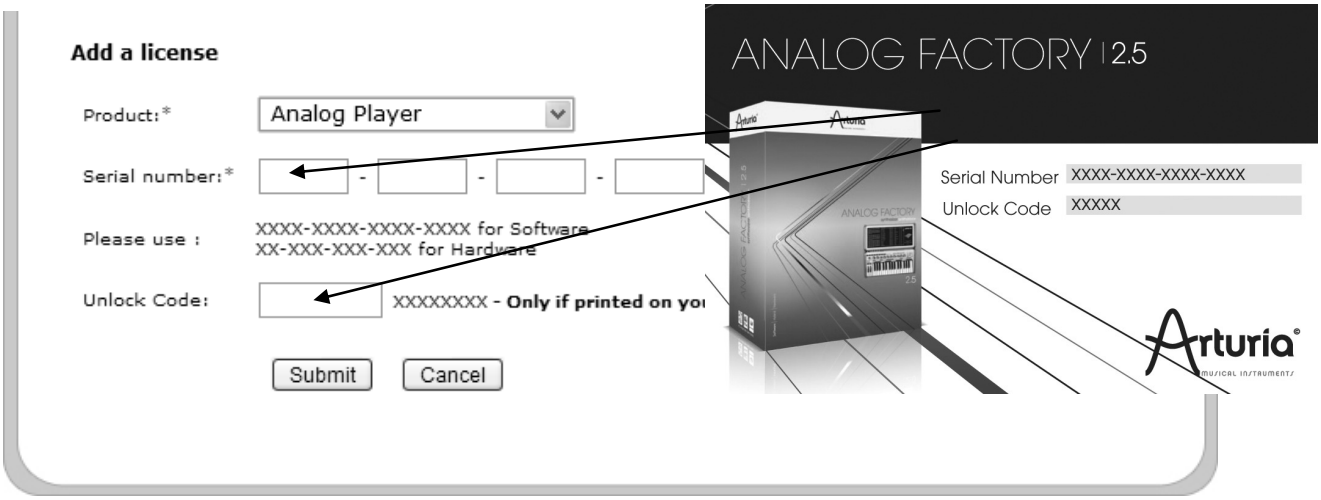


既にアカウントをお持ちの場合は、ログインを行ってください。:

あなたのアカウントにログインした後、ご自身のAnalog Player 2.5 を登録し、アクティベーションコードを要求することが可能です。

あなたのアカウントの “My Registered Products” セクションに行き、 “Add”ボタンをクリックしてください。

表示された書式のドロップダウンメニューから“Analog Player”を選択し、あなたのシンセサイザーの(レジストレーションカードに記載されている)シリアルナンバーとアンロックコードを入力してください。

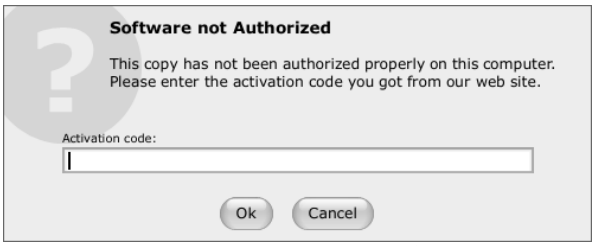


確認スクリーンを見直し、記入漏れ、間違いがないか確認してください。

最後に**アクティベーションコード**をコピー可能なスクリーンが現れます。また同じ内容の情報がバックアップとして登録されたメールアドレスに送信されます。

次は Analog Player 2.5 を起動してオーサライゼーションウインドウを表示してください。:

アクティベーションコードをコピーしてAnalog Player シンセサイザーのウィンドウにペーストしてください。



アクティベーションウインドウ

アクティベーションコードが正しく入力されるとシンセサイザーが起動します。

4　アナログプレイヤー2.5 を使用する

4.1　プリファレンス

プリファレンスウィンドウ

バーチャルキーボードの上部にある「AnalogFactory 2.5」のロゴをクリックすると、アナログプレイヤーのプリファレンスが表示され、以下の設定が可能です。

LCD COLOR	プリセットマネージャー内の表示色をいくつかの選択肢の中から選択できます。
SHOW ANIMATION (アニメーションのオン/オフ)	キーボード表示、プリセットマネージャー表示の際にアニメーション表示をするか、しないかを選択できます。
SHOW CONTROL POPUP WHEN MOUSE CLICKS ON CONTROL	マウスをつまみやスライダー上でクリックすると、そのプリセットで設定された値がポップアップウインドウ上にパラメーター名と共に表示されます。この機能のON、OFFを選択できます。(デフォルトはON)
SHOW CONTROL POPUP WHEN MOUSE RESTS ON CONTROL	マウスをつまみやスライダー上に置くと、そのプリセットで設定された値がポップアップウインドウ上にパラメーター名と共に表示されます。この機能のON、OFFを選択できます。(デフォルトはON)

4.2 ツールバー

ツールバー

ツールバー内にはアナログプレイヤーを管理する上で重要なアイコンが存在しています。

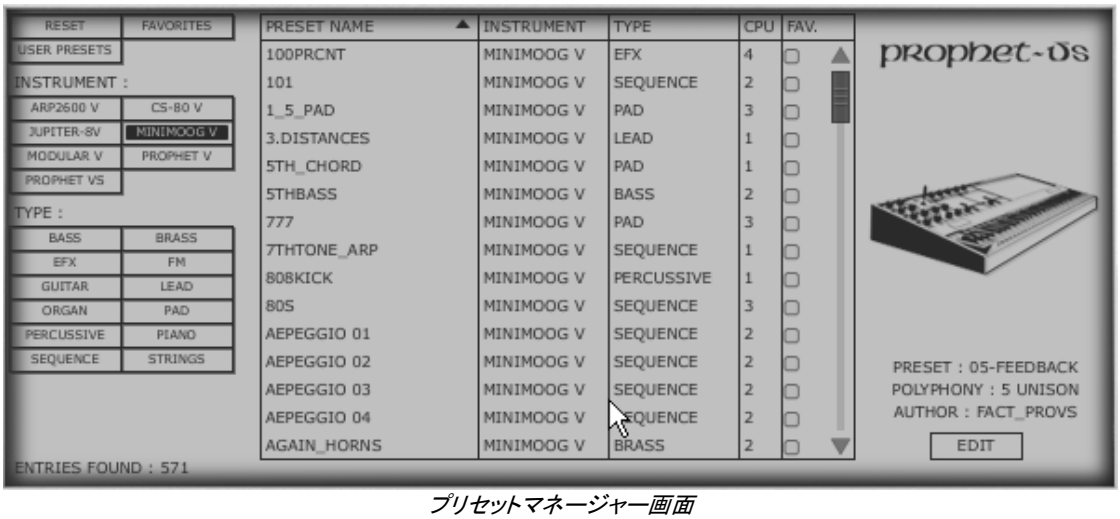
左から順に以下のアイコンが並んでいます。

PRESET NAME **INSTRUMENT TYPE**	現在選択されているプリセット名、楽器、タイプが表示されています。
SAVE AS	つまみ等でエディットしたプリセットを新しい名前をつけて保存します。新しいプリセットはユーザープリセットとして保存されます。(プレイヤープリセットは変更できません)プリセット名の他にもタイプやキャラクターも指定できます。 ⚠ *インストールされているプレイヤープリセットは保存や消去が出来ませんが、"SAVE AS"の機能であなたのオリジナル音色(ユーザープリセット)を無限に増やすことができます。*
SAVE	ユーザープリセット を上書きします。
DELETE	ユーザープリセット を消去します。
IMPORT	アナログプレイヤーのユーザープリセットをインポートします。".afpresets" の拡張子のついたファイルをインポートできます。同じ名前のファイルをインポートした場合は、Duplicate(複製)、Replace(交換)、skip(スキップ)から選択します。: ▪ Duplicate(複製)では同じ名前でリストが追加されます。 ▪ Replace(交換)では元のプリセットを消去してインポートされる音色が新しく追加されます。 ▪ Skip(スキップ)ではインポートする事を中止します。
EXPORT	ユーザープリセットをエクスポートします。"Export"をクリックし、エクスポート先を選択します。与えられた名前に "*.afpresets"の拡張子の付いたファイルが作成されます。 ⚠ *プレイヤープリセットはインポート、エクスポートできません。ユーザープリセットだけの機能となります。*
MIDI IN	外部MIDIコントローラーからの MIDI信号を受信するとライトが点灯します。
MIDI CH.	このドロップダウンメニューは、アナログプレイヤーがMIDI情報を受信するチャンネルを選択します。デフォルトでは、OMNI(すべてのMIDIチャンネルを受信する)に設定されています。
TUNE	アナログプレイヤー全体のチューニングを設定できます。他の楽器とのアンサンブルに備え、微妙なチューニングを行う事ができます。

VIEW インターフェイスの見せ方を選択します。全体表示、キーボード表示のみ、プリセットマネージャー表示のみの 3 種類から選択できます。

4.3 プリセットマネージャー

アナログプレイヤーは様々な音色をプリセットとして搭載しており、その数は 1000 音色にもなります。一つのプリセットには、その音色がどのような用途で使われ、何に最適か？等の様々な情報が含まれています。アナログプレイヤーでは、簡単に目的に合致する適切な音色を 1000 音色の中から探す事ができる、様々な方法があります。検索できる要素として「シンセサイザーの検索」、「楽器タイプの検索」、「キャラクター別の検索」があり、プリセットマネージャー画面の右側にて選択します。では、それぞれを見ていきましょう。



プリセットマネージャー画面

4.3.1 Instrument（シンセサイザーの検索）

“INSTURUMENT（シンセサイザーの検索）”でアナログプレイヤーに搭載している、以下の 6 種類のアナログシンセサイザーを選択できます。

- Moog Modular V（モーグモジュラー V）
- CS-80 V
- minimoog V（ミニモーグ V）
- Arp 2600 V（アープ 2600 V）
- Prophet V（プロフェット V）
- Prophet VS（プロフェット VS）
- Jupiter-8V （ジュピター V）

例えば、「CS-80V」のみをクリックすると、プリセットマネージャー画面には「CS-80V 」によるすべてのプリセットがリストに表示されます。また「CS-80V」と「ARP2600V 」の 2 つを選択すると、CS-80V」と「ARP2600V 」による

すべてのプリセットがリストに同時に表示されます。 INSTURUMENTが何も選択されていない場合は、自動的にすべてのプリセットが表示されます。

4.3.2 Type（楽器タイプの検索）

“TYPE（楽器タイプの検索）”には、以下の様々な楽器別タイプがあります。

- Bass（ベース）
- Pad（パッド）
- Lead（リード）
- EFX （サウンドエフェクト）
- FM（周波数変調）
- Brass（ブラス）
- Percussive（パーカッシブ）
- Sequence（シーケンス）
- Strings（ストリングス）
- Guitar（ギター）
- Organ（オルガン）
- Piano（ピアノ）

“INSTRUMENT（シンセサイザー検索）“での動作と同様に、1 つまたは 2 つ以上のタイプを選択することができます。「BASS」を選択する事で、すべての「BASS」音色がリストに表われます。

「BASS」と「STRINGS」を選択した場合、両方のタイプの音色が表われます。

例えば、「BASS」「PAD」「STRINGS」の楽器タイプを「MOOG MODULAR V」と「ARP 2600 V」のシンセサイザーの中から検索するといった凝ったことも可能です。

4.3.3 Characteristics（キャラクター別の検索）

第 3 の検索方法として、“CHRACTERISTICS（キャラクター別の検索）“があります。ここでは、そのプリセットが持つ、以下のムードや雰囲気をキーワードに目的の音色を検索できます。

- Bright（ブライト）～ 明るい
- Dark（ダーク）～ 暗い
- Aggressive（アグレッシブ）～ 攻撃的な
- Quiet（クワイエット）～ 静かな
- Hard（ハード）～ 硬質な
- Soft（ソフト）～ ソフトな
- Complex（コンプレックス）～ 複雑な
- Simple（シンプル）～ シンプルな
- Short（ショート）～ 短い
- Long（ロング）～ 長い
- Bizarre（ビザール）～ 奇妙な

- Acid（アシッド）～ 幻想的な
- Ambient（アンビエント）～ 包み込むような
- Digital（デジタル）～ デジタルな
- Ensemble（アンサンブル）～ 多重感のある
- Noise（ノイズ）～ ノイジーな
- SoundTrack（サウンドトラック）～ SF映画のサウンドトラックのような
- Funky（ファンキー）～ ファンキーな

もう一度、これらのフィルターは個々に、またはユーザーがプリセットをイメージする順序で望むように、どんな組み合わせでも適用することが可能です。

4.3.4 Entries Found（検索結果）

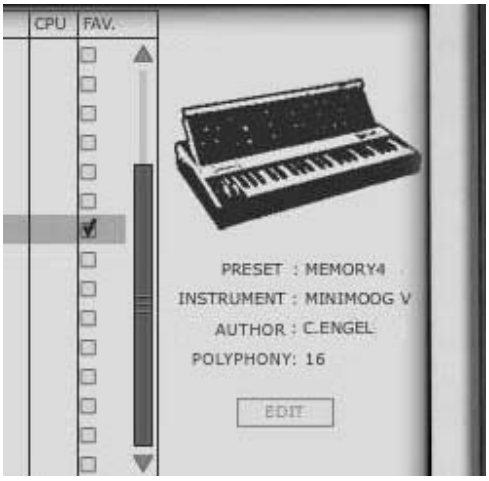
プリセットマネージャー画面の左下部に、検索されたプリセット数が表示されます。

4.3.5 Filter Options（フィルターオプション）

左上部には、RESET（リセット）、FAVORITES（フェイバリット）、USER（ユーザー）の選択肢があります。

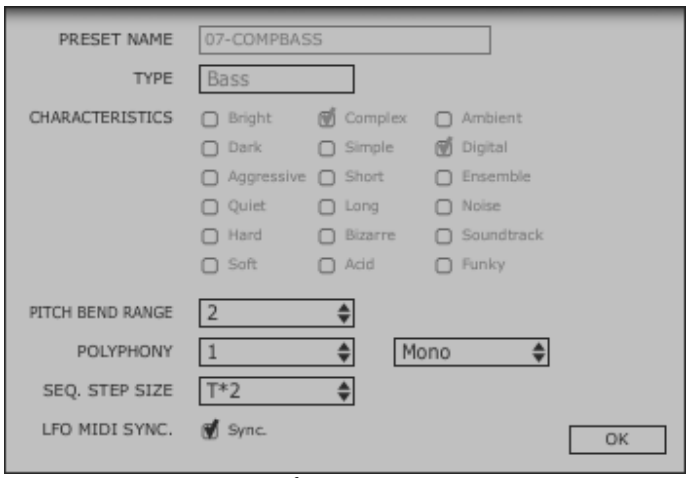
RESET	検索結果をリセットする際に使用します。新しい検索を行う際には、このPRESET（リセット）押してから始めるといいでしょう。
FAVORITES	3.3.7 章にあるフェイバリット（お好み音色）リストにチェックされたプリセット音色が表示されます。このフェイバリット機能が選択されている場合、シンセサイザー、楽器タイプ、キャラクター別の検索はこのフェイバリットのリスト内で行われます。
USER	USER PRESETS （ユーザープリセット）が表示されます。 プリセットを修正、作成して”SAVE AS”した場合、この USER PRESETS にメモリーされます。 この USER PESETSが選択されている場合、シンセサイザー、 楽器タイプ、キャラクター別の検索はこの USER PRESETS のリスト内で行われます。

4.3.6 プリセット音色の情報



現在選択されているプリセット音色の情報は、プリセットマネージャー画面の右側に表示されます。そのプリセット音色がサウンドエンジンとして使用しているオリジナルアナログシンセサイザーのイメージ画像とともに、以下の情報が表示されます。

PRESET	現在選択されているプリセット音色の名前です。
INSTRUMENT	現在選択されているプリセット音色がサウンドエンジンとして使用しているオリジナルアナログシンセサイザーの名称です。
AUTHOR	現在選択されているプリセット音色を作成したプログラマーの名前です。
POLYPHONY	現在選択されているプリセット音色で演奏可能なポリフォニック（和音）数です。
EDIT	USERPRESETS（ユーザープリセット）が選択されている際に、その音色が持つ様々なインフォメーションを修正することができます。この「EDIT」を押すと、ウインドウ上にて音色名、楽器タイプ、キャラクターを変更、修正することができます。



EDITプリセットウインドウ

4.3.7 構成

プリセットマネージャーにより、1000 ものプリセット音色から目的に合致した音色をスピーディに検索する事ができますが、このプリセットマネージャー上に表示された音色には、いくつかの情報が同時に表示されています。通常、PRESETNAME（プリセット音色名）は1～A～Z順に並んでいますが、逆順での表示も可能です.

PRESETNAME（プリセット音色名）のエリアをクリックする事で上向き、下向きの三角形が表われ、1～A～Z順、逆順が切り替わります。 以下のINSTRUMENT、TYPE、CPU、FAVORITESでも同様の並び替えが可能です。

INSTRUMENT	プリセット音色がサウンドエンジンとして使用しているオリジナルアナログシンセサイザー（minimoog V、 Moog Modular V、 ARP 2600 V、 CS-80 V、 Prophet V、 ProphetVS）の

	名称が表示されます。
TYPE	それぞれのプリセット音色の楽器タイプが表示されます。
CPU	それぞれのプリセット音色がどれだけCPUに負荷をかけるのかを 1～5 の範囲で表示します。1 だとCPU負荷が軽く、5 がより多くのCPU負荷をもたらします。
FAVORITES (FAV)	「FAV」と表示され、ここのボックスにチェックを入れるとプリセットマネージャー画面左上の「FAVORITES（フェイバリット）」に自動で登録されます。 FAVORITESとは「お好み」という意味で、まさに、1000 音色の中にお好みの音色が見つかったら、すぐにチェックをいれることをお勧めします。

4.4 キーボード画面

“アナログプレイヤー 2.5”のキーボード画面には仮想キーボード（鍵盤部分）とプリセット音色を修正するための様々なコントローラー（つまみ、スライダー、スイッチ等）があります。

4.4.1 V仮想キーボード（鍵盤部分）

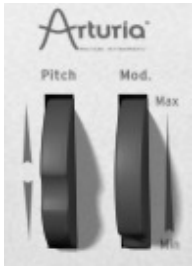
仮想キーボードの左にある**”LEVEL（レベル）”**のつまみが“アナログプレイヤー”のマスターボリュームで、右に回す事によりアウトプットレベル（音量）が増します。

仮想キーボードは 32 の鍵盤で構成されており、この仮想キーボードを使用する事で、外部MIDIキーボードがなくても“アナログプレイヤー”の音を出すことができます。 仮想キーボードの左側、モジュレーションホイールの上部には**“TRANSPOSE”（トランスポーズ）機能”**があり、キーボード上でのオクターブレンジをマイナス/プラスボタンでシフト（移調）する事が出来ます。

仮想キーボード

4.4.2 2 つのホイール

仮想キーボードの左側にはピッチベンドとモジュレーションのホイールがあり、それぞれ音程や変調をコントロールできます。



2 つのホイール

PITCH WHEEL	音程(ピッチ)をコントロールします。上方向で音程が上がり、下方向で音程が下がります。通常は中央に位置しています。
MOD	モジュレーション(変調)をコントロールします。MIDIコントロールナンバーは“1”にセットされています。 プリセット音色によってビブラート、ワウワウ、フィルター等の効果が割り当てられています。

⚠必ずしも全音色でモジュレーションホイールが接続されているわけではありません。モジュレーションホイールが設定されているプリセットでご使用ください。

4.4.3 フィルター

Filter

CUTOFF	カットオフ周波数を変化させます。このつまみを右方向に回すと音色が明るくなり、左方向に回すと暗くなります。
RESO	フィルターレゾナンスを変化させます。このつまみによりカットオフ周波数付近の倍音が変化し、ミョンミョンという癖のある音に変化します。

4.4.4 FX MIX (エフェクトミックス)

“アナログプレイヤー 2.5 ”は、シンプルですが便利なエフェクトセクションを搭載しています。CHORUS(コーラス)とDELAY(ディレイ) の 2 種類のエフェクトがあり、あなたが使用しているシーケンスソフトウエア上の曲のテンポと自動的に同期します。もっとエフェクトが必要な場合は、Cubase、GarageBand、ProTools等のシーケンスソフトウエアが搭載しているエフェクトを活用するのも一考です

FX MIX（エフェクトミックス）

CHORUS	コーラス効果はディープでリッチなサウンドにするために、多重感、ディチューン感を加えます。左目一杯の位置でコーラス効果は 0 となり、右方向でよりコーラス効果が深くなっていきます。
DELAY	ディレイ効果はエコーとも呼ばれサウンドをより空間的に演出できます。ディレイ成分である繰り返し音は、あなたが使用しているシーケンスソフトウエア上の曲のテンポと自動的に同期します。左目一杯の位置でディレイ効果は 0 となり、右方向でよりディレイ効果が深くなっていきます。

4.4.5 ADSR ノブ

“ADSR”形式のエンベロープジェネレーターで音色を修正できます。

ADSR とは、Attack time（アタックタイム）、 Decay time（ディケイタイム）、 Sustain time（サスティンレベル）、Release time（リリースタイム）を表します。

ATTACK	鍵盤を押した際の音の立ち上がりを調整します。アタックタイムが速いと音の立ち上がりが速くパーカッシブな音になり、アタックタイムが遅いと音の立ち上がりが遅く、パッド系サウンドに適した感じになります。
DECAY	アタックタイムの後、サスティンレベルに到達するまでの減衰を調整します。
SUSTAIN	鍵盤を押している間に持続しているレベルを調整します。
RELEASE	鍵盤を離した後、音が完全に消えるまでの余韻の時間を調整します。

これらのADSR、4 つのスライダーにより、”アナログプレイヤー”のそれぞれのプリセット音色のエンベロープをとても簡単にエディットすることができます。例えば、音の立ち上がりが極端に遅いので少し立ち上がりを速くしたい音色があった場合、Attacktime（アタックタイム）を表す”A”のスライダーで簡単に調整できます。

ADSR エンベロープ

以降の項でも説明いたしますが、“アナログプレイヤー 2.5 ”はマウスで操作するよりも、MIDIキーボードでの操作の方がより直感的な操作ができるでしょう。

4.4.6 SNAPSHOTS buttons（スナップショットボタン）

スナップショットボタンs

スナップショットボタンは、仮想キーボードの左上部に位置しています。これら 8 つのボタンで、簡単なアクセス用に使用するプリセットを 8 つまで素早く保存することができます。これら 8 つのスナップショットは、”アナログプレイヤー”を終了する時に自動的に保存され、再度”アナログプレイヤー2.5 ”を起動した際に自動的に戻ってきます。

この機能はライブパフォーマンス時にも便利でしょう。8 つのスナップショットをMIDIコントローラーのボタンやパッドから制御する事で素早い音色の切り替えが出来ます。

音楽制作時においても、修正した音色の比較が瞬時にできるのでとても便利です。例えば、1 つのプリセット音色から、少々カットオフ周波数を動かしたもの、エフェクトを深くしたもの等をスナップショットしておき比較しながら、じっくりと良い方を選択する事が出来ます。

スナップショットの方法：

- シンプルに現在使用中のプリセットを保存したい場合、8 つの任意のボタン上で、**Shift（シフト）キー+マウスでClick**(Macでは⌘+クリック)をすると現在使用中の音色がそのボタンに保存されます。
- その後、そのボタンをクリックすると保存した音色が呼び戻されます。
- もし、同じボタン上で**Shift（シフト）キー+マウスでClick**(Macでは⌘+クリック)をすると、以前そこに保存されていた音色は消去され、新たな音色が上書きされます。

4.4.7 MIDI コントロール

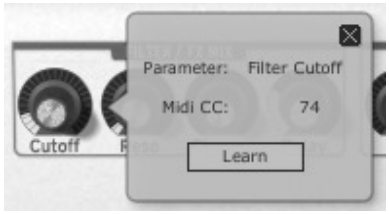
“アナログプレイヤー 2.5 ”上のほとんどのつまみ、スライダー、スイッチは外部MIDIコントローラーで制御でき、高レベルのユーザービリティを理想的な方法でコントロールできます。以前はコンピューター上でMIDIデバイスを有効にするために、面倒ながらも正確に接続をしなければなりませんでした。

“アナログプレイヤー 2.5 ”のあらゆる機能は決められたチャンネルで送られるMIDIイベントを受け付けます。
この受信チャンネルはシンセサイザーのための世界的な規格でシーケンサー、またはスタンドアローンの“アナログプレイヤー 2.5 ”アプリケーションでも受信可能です。“アナログプレイヤー 2.5 ”は異なるMIDIチャンネルを受信することが可能です。

“アナログプレイヤー 2.5 ”では、パソコンのキーボード上の**“コントロールキー”を押しながら、つまみ、スライダー、スイッチをマウスでクリックする事で**、簡単に外部MIDIコントローラー上のつまみ、スライダー、スイッチ等と連携する事が可能です。

注意：Macintoshの場合はコマンドキー＋マウスでクリック

クリックするとウインドウが表われ、MIDIコントロールナンバーを選ぶことができます。また≪Learn≫を押すと表示が反転して≪Learnning…≫と変わり、この状態で外部MIDIコントローラー上のつまみ、スライダー等を動かすと、自動的にMIDIコントロールナンバーを認識します。MIDIコントロールナンバーによる制御を解除したい場合は、≪Midi CC≫の右の数字をクリックし、リスト左上の“none”を選択します。



MIDIコントロールウインドウ

5　様々なモードでの使用方法

5.1　スタンドアローンとMIDIコンフィグレーション

“アナログプレイヤー 2.5 ”アプリケーションは、シーケンサーから独立したインストルメントとして使用することができます（スタンドアローンモード）。“アナログプレイヤー 2.5 ”では、1 つ、または複数台のインストルメントとして開くことができ、外部MIDIキーボードや他のコンピューターで動作するシーケンスソフトウエアを使って演奏することができます。

5.1.1　アプリケーションを立ち上げる

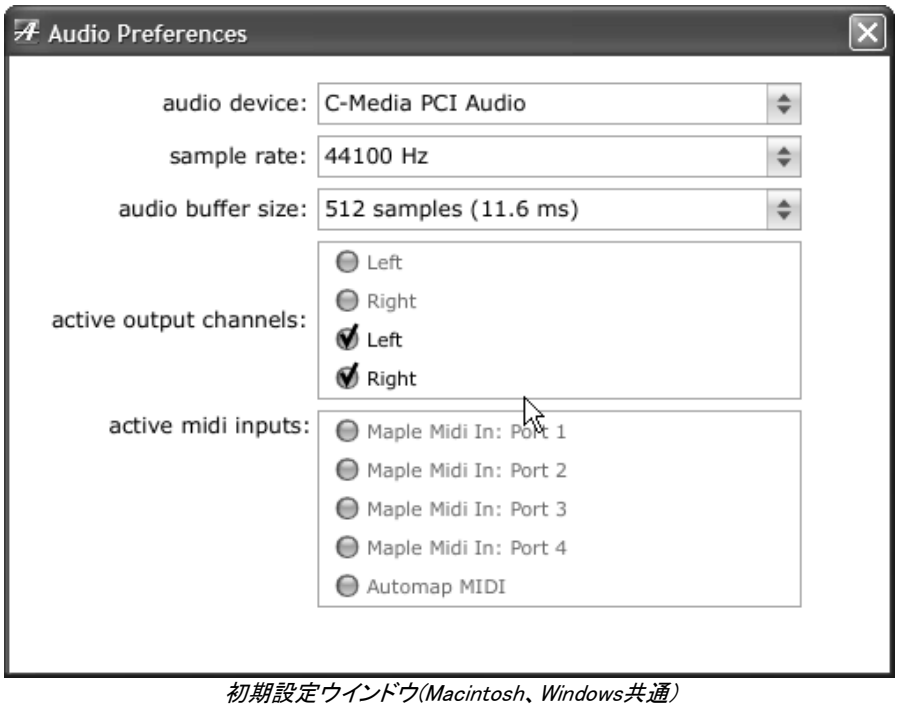
Windowsの場合：“アナログプレイヤー 2.5”アプリケーションを起動するには、スタートメニュー → Arturia → “Analog Player 2.5 ”を選択します。

Macintoshの場合：プリケーションフォルダー→Arturia/Analog Player 2.5 フォルダーを開き、“AnalogPlayer 2.5 ”アプリケーションのアイコンをダブルクリックします。

5.1.2　初期設定の変更

「初期設定」ウインドウでは、“アナログプレイヤー”の初期設定をおこなうことができます。また、ここで設定したセッティングは自動的に保存されます。

初期設定を表示するには、「ファイル」メニューから”Audio & Midi Preferences”を選択します。



初期設定ウインドウ(Macintosh、Windows共通)

audio device ここであなたが使用したいオーディオデバイスを選択します。

sample rate ここで、あなたが使用したいサンプリング周波数を選択します。高いサンプリング周波数を選択すると使用するコンピューターのプロセッサー（CPU）に負荷がかかりますので、ご注意下さい。

audio buffer size ここでご使用になるオーディオインターフェースの最適なレイテンシーを選択します。ご使用のシステムに合わないセッティングをされた場合、不自然な音が出る場合があるので、設定には充分ご注意ください。

output channels オーディオ出力のアウトプットを選択します。いくつかの選択肢がある場合は、ステレオ出力に適した左右ペアのアウトプットを選択してください。

active MIDI inputs 外部MIDI機器、コントローラーを使用する際のMIDIデバイスを選択します。使用可能なMIDIデバイスが表示されます。

5.2 VST

5.2.1 インストール

5.2.1.1 Windowsの場合

インストール中に表示されるプラグインフォーマットの選択画面でVSTオプションを選択してください。Cubaseをご使用の場合、インストーラーは自動的にVSTプラグインフォルダーを検出し、プラグインファイルをインストールします。Logic Audioなど他のVST互換性を持つシーケンサーをご使用の場合は、適切なフォルダーにプラグインのファイルを手動でコピーする必要があります

プラグインファイルは下記の場所にインストールされています:

フォルダー名 ≪ C:¥Program¥Files¥Arturia¥ANALOG PLAYER¥≫

ファイル名 ≪ ANALOG PLAYER.dll ≫

7.2.1.2 Mac OS Xの場合

MacOS Xの場合、プラグインファイルはすべて自動的にインストールされます。インストール完了後、VSTプラグインに対応したホストアプリケーションから起動して使用することができます

プラグインファイルは、≪ /ライブラリ/Audio/Plug-Ins/VST/≫にインストールされています。

5.2.2 VSTインストゥルメントとして使用する場合

“アナログプレイヤー 2.5 ”をVSTプラグインとして使用する場合、他のVSTプラグインと同じ方法でご使用になれます。詳細はホストアプリケーションのユーザーマニュアルを参照してください。Cubaseでご使用になる場合、≪ デバイス / VSTインストゥルメント ≫ メニューを開いてラックの中から“Analog PlayerY 2.5 ”を選択して下さい。

Cubaseで“アナログプレイヤー”を起動する

5.2.2.1 MIDIトラックとの接続

MIDIトラックに入力したノート情報で“アナログプレイヤー 2.5 ”を演奏させるにはMIDIトラックを選び、(Cubaseの場合)メニューから使用するトラックのMIDI出力として”ANALOG FACTORY 2.5 ”を選択します。

「アナログプレイヤー」をMIDIトラックに接続

MIDIキーボードで演奏されたMIDIイベントは、シーケンサーを通じて“アナログプレイヤー 2.5 ”に送信されます。これらのMIDIイベントを録音し、シーケンサーのMIDIエディット機能を使用して編集することも可能です。

7.2.1.3 プリセットの保存

セッションを保存すると、プリセットを変更した音色であっても”アナログプレイヤー 2.5 ”で操作した情報は保存されます。例えば、プリセットの ≪ P1 ≫ をエディットした音色を ≪ P2 ≫ として保存していなくても、次にその曲を開くと”アナログプレイヤー 2.5 ”のプリセット ≪ P1 ≫ を変更した音色が保存されています。

VST対応のホストアプリケーションのメニューからプラグインインストゥルメントに関する設定を保存することも可能です。しかし、特に必要がない場合、” アナログプレイヤー 2.5 ”のユーティリティーバーから保存することをお奨めします:この方法で保存されたプリセットは他のモード(スタンドアローン、他のシーケンサー)でも使用でき、独立したファイルとしてエクスポートすることができます。

7.2.1.4 オートメーション

“アナログプレイヤー 2.5 ”へのオートメーション操作は他のVSTプラグインと同様です（詳細についてはVSTシーケンサーのプラグインオートメーション関連の項目を参照ください）。

5.3 Audio Unit (Mac OS X のみ)

5.3.1 インストール

プラグインファイル（コンポーネントファイル）はインストールプログラムによって自動的にインストールされます。（/ライブラリ/Audio/Plug-Ins/Component/）

7.2.2 Logic の場合

“アナログプレイヤー 2.5 ”を挿入するインストゥルメントトラックを選択し、そのトラックのミキサーウインドウの“I/O”ボタンをクリックします。表示されたメニューをStereo -> AU Instrument（またはAudio Unit） -> Arturia -> “ANALOG PLAYER 2.5 ”の順に選択するとAudio Unitインストゥルメントとして起動することができます。

Logicでアナログプレイヤー”を開く

Logic Pro 7 以降にはAUマネージャーが搭載されています。AUマネージャーを起動するには“Logic Pro”メニューから“Preferences -> Start Logic AU Manager”の順に選択してください。

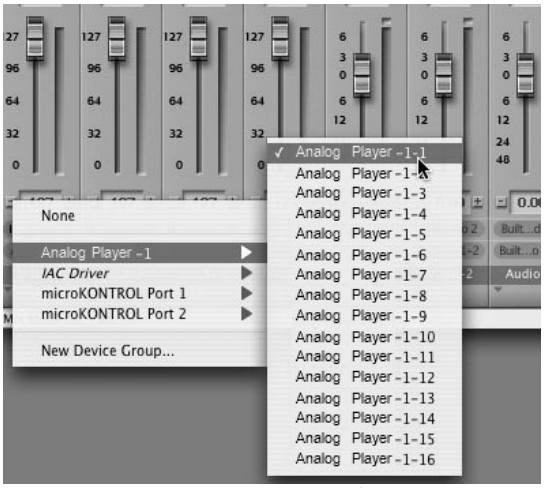
AUマネージャーの起動

AUマネージャーでは、使用可能なプラグインのリストの表示、Logicとの互換性、プラグインの使用/不使用などを設定することができます。

Logic上でトラブルが発生した場合は、この機能を使用して互換性のチェック等を行ってください 。

5.3.2 Digital Performer の場合

Digital Performerのメニューバーで「Project>Add Track>Instrument Track」を選択すると、インストールされているAudio Unitインストゥルメントのリストが表われ、「ANALOGPLAYER 2.5 」を選択すると起動することができます。



Digital Performer4 で"アナログプレイヤー "を開く

5.4 Pro Tools

5.4.1 インストール

インストール中に表示されるプラグインフォーマットの選択画面で**RTAS protocol**を選択してください（Windowsのみ）。 Macintoshは自動的にプラグインファイルがインストールされます。

RTASプラグインをインストールするフォルダーを選択するアラートが出た場合、次のパスを指定してください：

Mac OS Xの場合：/ライブラリ/Application Support/Digidesign/Plug-Ins/

Windowsの場合：C:¥Program Files¥Common Files¥Digidesign¥DAE¥Plug-Ins

5.4.2 プラグインとしての利用

5.4.2.1 プラグインを起動する

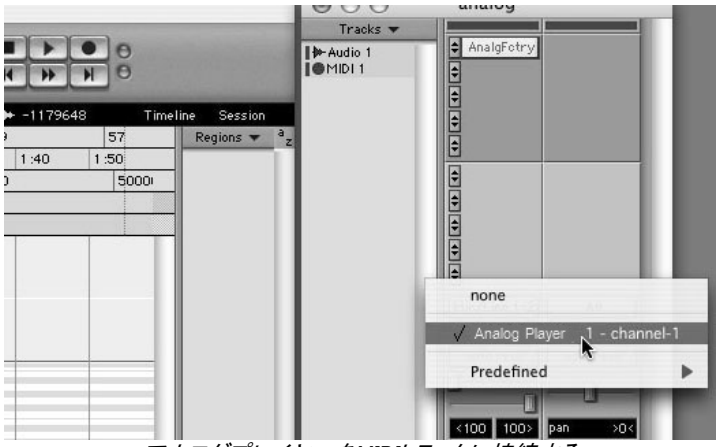
アナログプレイヤー 2.5 "をプラグインとして起動するには、他のプラグイン同様オーディオトラックに挿入します（下図の例を参照）

Pro Tools上で"アナログプレイヤー 2.5"を起動する

"アナログプレイヤー 2.5 "は、ステレオオーディオトラックに挿入する必要があります。プラグイン起動後は、マウスやバーチャルキーボードを使って"アナログプレイヤー 2.5 "を演奏することができます。

5.4.2.2 MIDIトラックとの接続

"アナログプレイヤー 2.5"はMIDIトラックのノート情報で演奏することができます。この場合は、使用したいMIDIインターフェイスやMIDIチャンネルの設定を"アナログプレイヤー 2.5 "に関連付けてください。以降、"。アナログプレイヤー 2.5 "はキーボードを通じてコントロールできます（デバイス接続についての詳細はPro Toolsのマニュアルを参照ください）。



アナログプレイヤーをMIDIトラックに接続する

5.4.2.3 Saving the presets

セッションを保存すると、プリセットを変更した音色であっても"アナログプレイヤー2.5 "で操作した情報は保存されます。例えば、プリセットの ≪ P1 ≫ をエディットした音色を ≪ P2 ≫ として保存していなくても、次にその曲を開くと"アナログプレイヤー 2.5 "のプリセット ≪ P1 ≫ を変更した音色が保存されています。
ProToolsの<<Librarian Menu>のソング保存機能を使用してソングを保存することで音色等の設定を保存することも可能です。しかし、特に必要がない場合、" アナログプレイヤー"のユーティリティーバーから保存することをお奨めします：この方法で保存されたプリセットは他のモード（スタンドアローン、他のシーケンサー）でも使用でき、独立したファイルとしてエクスポートすることができます。

5.4.2.4 Pro Toolsでのオートメーション

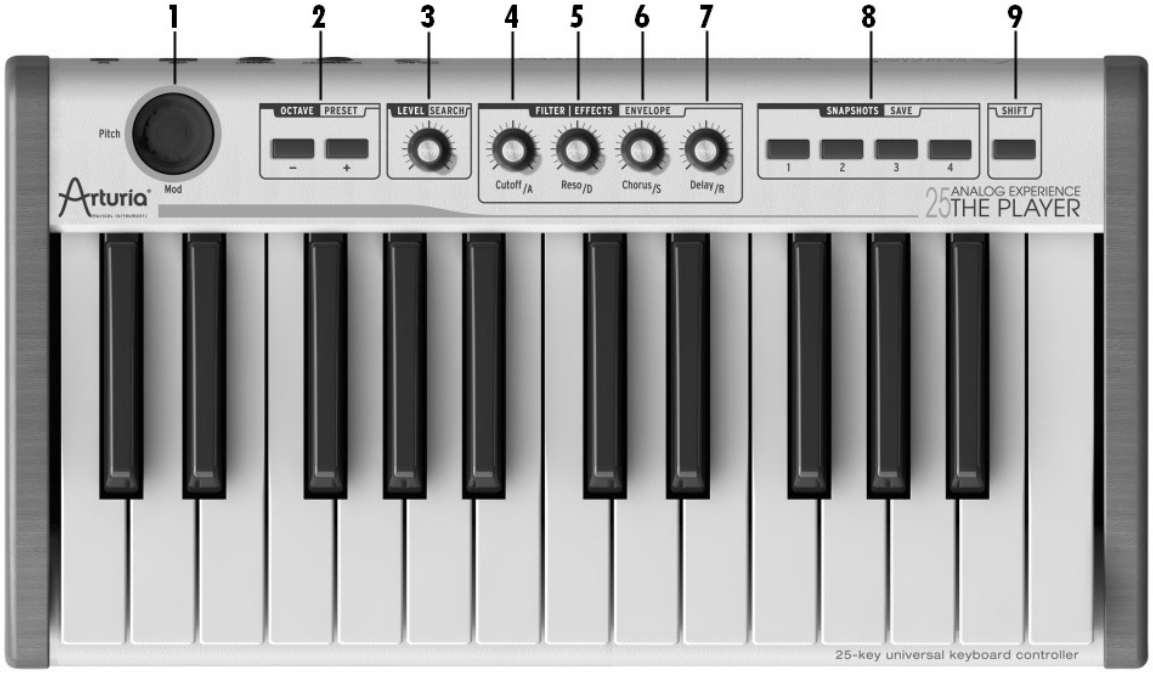
“アナログプレイヤー 2.5 ”へのオートメーション操作は他のRTAS/HTDMプラグインと同様です。
（プラグインのオートメーション機能の詳細については、ProToolsのマニュアルをご参照ください）

6 アナログプレイヤーキーボード
(ANALOG EXPERIENCE“THE PLAYER”のみ)

6.1 フロントパネル概観

アナログプレイヤー・キーボードは、ソフトウェアのコントロール画面と同一の機能を持つ、ベロシティセンサー付き 25 鍵のキーボードです。

アナログプレイヤー・キーボード、前面パネルの概観(左から右へ)



1) モジュレーション&ピッチベンドに使用するジョイスティック
2) オクターブ +/− または プリセットUp/Downボタン
3) レベルまたはナビゲーション(クリック可能なロータリーエンコーダー)
4) フィルターカットオフ (シフトモードの時は、アタック)
5) フィルターレゾナンス (シフトモードの時は、ディケイ)
6) コーラスミックス(シフトモードの時は、サスティン)
7) ディレイミックス(シフトモードの時は、リリース)
8) 4 スナップショットボタン
9) シフトボタン

6.1.1 キーボード

アナログプレイヤー・キーボードは 25 鍵のベロシティセンサー付きキーボード、コントローラーです。

6.1.2 シフトボタン

シフトボタンはアナログプレイヤー・キーボードを"シフト"モードにセットします。このボタンが押されると、ライトが点灯し、"シフト"モードに切り替わります。"シフト"モードでは、オクターブ ボタンが、プリセット選択ボタンとして機能し、スナップショットボタンがセーブボタンとして機能します。
下記のような特徴があります。:

- プリセット/オクターブ
- スナップショット/セーブボタン
- レベル/サーチ・ロータリーエンコーダー
- ロータリーノブ
- これらの機能の詳細については、以下の章を参照してください。

6.1.3 レベル/サーチ・ロータリエンコーダー

The "Level/Search" rotary encoder works either to set the volume of Analog Player 2.5 or to select synth types or characteristic criteria of the presets. It works in combination with the Shift button.

- **「シフト」モードを使用していない場合**、このツマミは「レベル/サーチ」ロータリー・エンコーダーとしてシンセサイザーのボリュームをコントロールします。
- **「シフト」モードを使用している場合**、このツマミはシンセのタイプ、またはキャラクターを選択します。

エンコーダーを押した場合、アナログプレイヤー 2.5 の便利なプリセットマネージメント・システムを使用してプリセットをブラウジングすることが可能です。

⚠このスイッチオプションを使用する場合、エンコーダーが他のものと異なっていることを理解しておいてください。エンコーダーをクリックすると、「サーチ」モードのオン/オフ、または検索基準について。

6.1.4 プリセット/オクターブ・ボタン

このボタンには(シフトボタンと組み合わせて)2 つの機能があります。:オクターブトランスポーズとプリセット選択です。

「シフトボタン」を押していない場合、このボタンはオクターブの上下ボタンとして動作します。3 オクターブまでの増減が可能です。プラス/マイナス・ボタンを押してソフトウエアを好ましいオクターブに設定します。LEDによる 7 種類のステイタスは、現在どのオクターブ・セッティングなのかを表示します。

- オクターブ -3 : LED- 点滅スピード 3、LED+ 点滅無
- オクターブ -2 : LED- 点滅スピード 2、LED+ 点滅無
- オクターブ -1 : LED- 点滅スピード 1、LED+ 点滅無
- オクターブ 0 : LED-と LED+ともに点滅無
- オクターブ +1 : LED+ 点滅スピード 1、LED- 点滅無

- オクターブ +2 : LED+ 点滅スピード 2、LED− 点滅無
- オクターブ +3 : LED+ 点滅スピード 3、LED− 点滅無

「シフト・ボタン」を押している場合、アナログプレイヤーが持つ膨大なライブラリーを簡単に閲覧するための「プリセット上/下」ボタンとして機能します。

6.1.5 スナップショット/セーブボタン

スナップショット/セーブ ボタンはスナップショットの記憶/呼出しに使います。
全ての編集可能なパラメータはスナップショットとして保存出来ます。通常はスナップショットの呼出ボタンですが、”シフト”モード時はスナップショットのセーブボタンとして機能します。

- **「シフト」モードを使用していない場合**、このボタンはスナップショット機能として動作します。
- **「シフト」モードを使用している場合**、このボタンはスナップショットを保存します。アナログプレイヤー 2.5 のエディットした結果はすべてスナップショットとして保存されます。

6.2 ジョイスティック

水平方向でリアルタイムピッチシフト、垂直方向でモジュレーションセッティングという 2 つのコントロールを行います。

6.2.1 ピッチベンド

ジョイスティックを水平方向に動かすことで、現在演奏しているノートのピッチが変化します。ピッチのレンジはプラスマイナス 1 オクターブですが、その幅は、選択された音色により変化します。

6.2.2 モジュレーション

ジョイスティックを垂直方向に動かすことにより、現在演奏している音色のモジュレーションデプスをコントロールします。その変化幅は、選択された音色により異なります。

⚠ *モジュレーションホイールは必ずしも有効であるとは限りません。プリセットの設定に依存します。*

6.3 シンセシスセクション

アナログプレイヤー 2.5 のすべてのシンセシスパラメータです。

6.3.1 フィルター制御ロータリーエンコーダー

選択されたプリセット音色の「フィルターカットオフ周波数」と「レゾナンス」をコントロールする2つのノブ（ツマミ）です。

6.3.2 エフェクトミックス・ロータリーエンコーダー

2つの ‘FX Mix’ ロータリーエンコーダーはコーラスとディレイエフェクトのバランスを調整します。左へ回すとドライの割合が増え、右へ回すとエフェクトの量が増えます。

6.3.3 オルタネートADSR ファンクション

シフトモード中、4 つのノブには別の機能が与えられます。:ADSRをコントロールします。

6.4 リアパネル概観

アナログプレイヤー・キーボード、リアパネルの概観（左から右へ）

1) 電源 オン/オフ スイッチ
2) DC入力端子 （DC アダプター:12V 500mA ⊖—◉—⊕ ）
3) USB 端子
4) MIDIアウト
5) サスティンペダル接続端子

アナログプレイヤー・キーボードのセットアップは簡単で速やかです。まずプログラムソフトウェアをインストールし（チャプター2 インストール参照）、パッケージから取り出したキーボードをコンピューターに接続するだけです。アナログプレイヤー・キーボードはUSBバスパワーに対応しています。一本のUSBケーブルで繋ぐのみで全ての接続は完了です。
もし、ACアダプターの使用を望まれるのなら、専用の 12Vのアダプターを背面の端子に接続して下さい。

⚠ ACアダプターは同梱されていません。サードパーティ製のアダプターをご使用になる前に、互換性を確認して下さい。詳しくは仕様についての説明を御覧下さい

アナログプレイヤー・キーボードをお使いのコンピュータで機能させるために、特別なドライバーをインストールする必要はありません。プラグ＆プレイに対応しているので、アナログプレイヤー・キーボードを接続した際、ドライバは自動的にインストールされます。

6.4.1 MIDI 接続について

アナログプレイヤー・キーボードは、USBを経由してMIDIの送受信をおこなうだけでなく、MIDIインターフェイスとしても機能します。背面パネルのMIDI出力端子から、音源モジュール、シンセサイザー、シーケンサー、ドラムマシンなど他のMIDI機器に信号を送信し、各機器をコントロールすることが出来ます。

6.4.2 Power supply

アナログプレイヤー・キーボードはUSBバスパワーを使用しますが、必要であればACアダプターを使用して電源を供給することも可能です。その場合は 12V DC 500mA（中央がプラス）のアダプターを使用して下さい。
⊖—◉—⊕ アダプターは背面パネルの端子に接続します。

6.5 基本的なMIDIコントロール

アナログプレイヤー 2.5 の全パラメーターは、ハードウェアキーボードによってコントロール出来ます。ソフトウェアを起動し、キーボードを接続すれば、マウスやコンピュータのキーボードを使わずに、完全にコントロールすることが出来ます。

7　MIDI インプリメンテーション
(ANALOG EXPERIENCE“THE　PLAYER”のみ)

7.1　キーボードの使い方

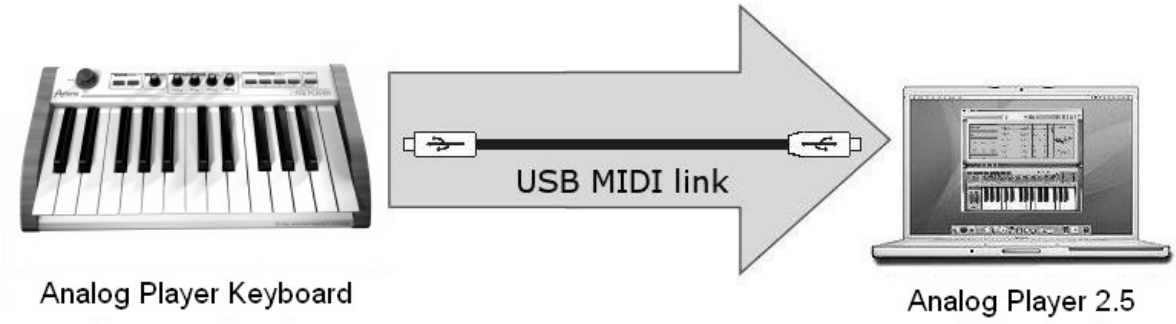
アナログプレイヤー・キーボードはアナログプレイヤー2.5 のコントローラとしてだけでなく、スタンダードなMIDIコントローラーキーボードとしても使用出来ます。この後に続く情報は、このキーボードを使って、アナログプレイヤー2.5 以外のソフトウェア音源や、MIDI音源を演奏するために役に立つでしょう。

7.2　MIDIとは？

MIDIとは（Musical Instrument Digital Interface）
の略語で電子楽器やコンピューターと演奏データをやり取りするための、世界的な規格です。

MIDIは異なる電子楽器間でのデータのやり取りを可能にしました。 送信側でなされたことは、そのまま受信側に伝わります。例えば、アナログプレイヤー・キーボードでCの音を演奏したとします。 その時のキーのオン/オフやベロシティ（キーを叩く強弱）情報などは、MIDIを通じて、受信側の楽器やコンピューターに送られ、受信側はその通りに反応します。

言い方を変えれば、MIDIは電子楽器同士会話するための言語であると言えます。



MIDIは標準的に、シンセサイザーやMIDI音源モジュールにあらかじめアサインされた 127 個のパラメーターを 持っています。

MIDIの個別情報 ”SYSEXもしくははシステムエクスクルーシブメッセージ”もシンセサイザーやMIDI音源モジュールの各パラメーターをコントロールするために使用することが出来ます。

7.3 MIDI インプリメンテーションチャート

Arturia Analog Experience “The Player” USB MIDI Master Keyboard.

Model : **APE25**

Version : **1.1**

Function		Transmitted	Recognized
Basic Channel	Default	1	1~16
	Changed	1~16	1~16
Mode	Default		
	Messages		
	Altered		
Note Number		0~127	X
	True Voice	*******	
Velocity	Note On	O v=0~127	X
	Note Off	O	X
After Touch	Key's	X	X
	Channel	X	X
Pitch Bend		O	X
Control Change		O v=0~127	X
Program Change		X	X
System Exclusive		O	O
System common	Song position	X	X
	Song select	X	X
	Tune request	X	X
System Real time	Clock	X	X
	Commands	X	X
Aux Messages	Local on/off	X	X
	All notes off	X	X
	Active sensing	X	X
	System reset	X	X

7.4 MIDI コントローラーリスト

Item id	Description	CC number	Value
0x01	Filter Cutoff	74	0..127
0x02	Filter Reso	71	0..127
0x09	Fx Chorus	93	0..127
0x0A	Fx Delay	91	0..127
0x0B	Envelope Attack	73	0..127
0x0C	Envelope Decay	75	0..127
0x0D	Envelope Sustain	79	0..127
0x0E	Envelope Release	72	0..127
0x10	Preset down	20	0 or 127
0x11	Preset Up	21	0 or 127
0x12	Recall snap 1	22	0 or 127
0x13	Recall snap 2	23	0 or 127
0x14	Recall snap 3	24	0 or 127
0x15	Recall snap 4	25	0 or 127
0x22	Save snap 1	104	0 or 127
0x23	Save snap 2	105	0 or 127
0x24	Save snap 3	106	0 or 127
0x25	Save snap 4	107	0 or 127
0x30	Volume	7	0..127
0x31	Search	112	+/- 1
0x32	Select	113	0 or 127
0x40	Modulation wheel	1	0..127
0x50	Sustain pedal	64	0 or 127

7.5 システムエクスクルーシブメッセージ詳細

SysEx	Description		T	R
F000206B02 0101 nn F7	Item config request	nn:item		O
F000206B02 0102 nn cc F7	Item config response	cc:cc number	O	
F000206B02 0103 nn cc F7	Item config Set			O
F000206B02 0201 nn F7	Item value request	nn:item(see table above)		O
F000206B02 0202 nn vv F7	Item value response	vv: value	O	
F000206B02 0203 nn vv F7	Item value set			O
F000206B02 0301 F7	MIDI channel request			O
F000206B02 0302 0c F7	MIDI channel response	c: MIDI channel(0 to F)	O	
F000206B02 0303 0c F7	MIDI channel set			O
F000206B02 0401 F7	Octave shift request			O
F000206B02 0402 ss F7	Octave shift reponse	ss: octave shift (-3 to 3)	O	
F000206B02 0402 ss F7	Octave shift set			O
F000206B02 0501 F7	velo curve request			O
F000206B02 0502 nn F7	velo curve response	nn: curve index	O	
F000206B02 0503 nn F7	velo curve set			O
F000206B02 0701 F7	acc mode request			O
F000206B02 0702 nn F7	acc mode response	nn: mode index	O	
F000206B02 0703 nn F7	acc mode set			O
F000206B02 0801 nn F7	led state request	nn:item 0x63 to 0x66		O
F000206B02 0802 nn 0v F7	led state response	vv: value (0 or 1)	O	
F000206B02 0803 nn 0v F7	led state set			O
F000206B02 0901 nn F7	global param. request	nn:parameter **(*)**		O
F000206B02 0902 nn 0v F7	global param. response	vv: value (0 or 1)	O	
F000206B02 0903 nn 0v F7	global param. set			O

(*) Global parameter:

nn = 2 Relative mode: 1 = absolute, 127 = relative

Values that could be negative are coded this way: absolute value is coded on the 6 less significant bits; the sign is coded on the 7th bit.

8 MIDI コントロールセンター
(ANALOG EXPERIENCE "THE PLAYER" のみ)

MIDIコントロールセンターは、Analog Experienceキーボードの MIDIセッティングを記憶させるのに使用するユーティリティです。

このユーティリティはAnalog Experience 2.5 と同じフォルダにあります。

8.1 MIDIコントロールセンターを起動する

MIDIコントロールセンターを起動する前に、Arturia Analog Experienceキーボードがコンピューターに接続していることを確認してください。

MIDIコントロールセンターユーティリティは自動的にキーボードを見つけ、現在の設定をロードします。

⚠ *MIDIコントロールセンターは、特にAnalog Experienceキーボードを動かすように出来ています。他のMIDIデバイスをコントロールすることはできません。*

一番上のセクションではキーボードセッティングをエディットすることが可能です。

下のセクションは、Arturia Analog Experienceキーボードを操作する実際の要素を表し、どのコントロールがセットアップされるかを選択するのに使用されます。

8.2 MIDIセッティングを変更する

8.2.1 グローバルセッティング

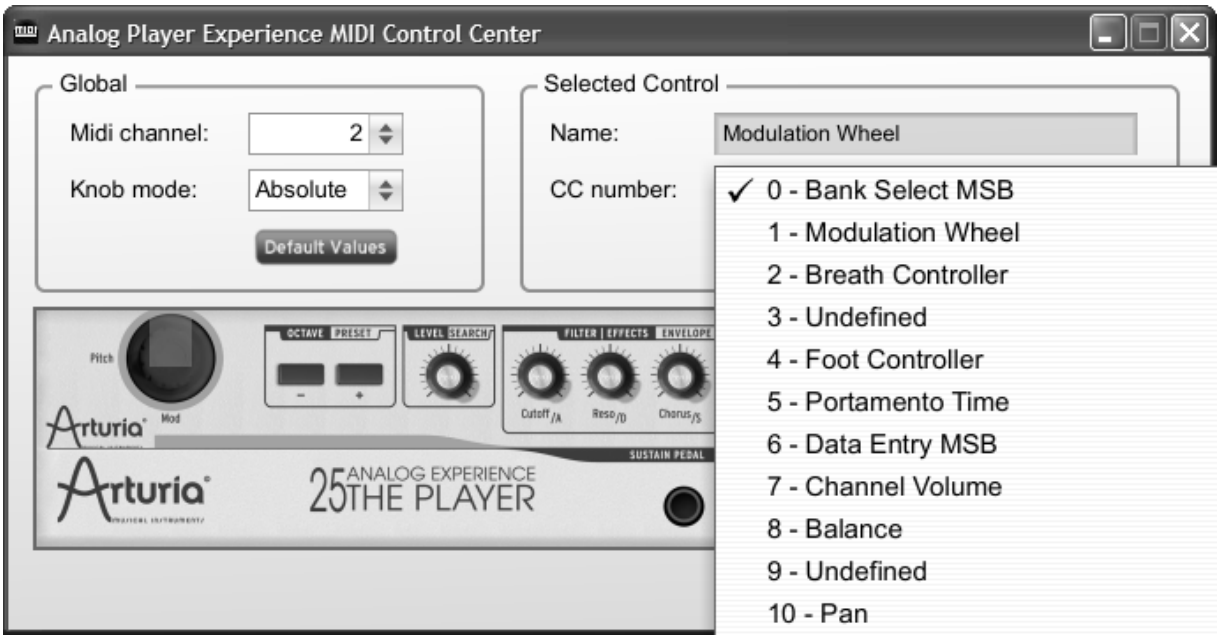
グローバルセッティングとして（すべてのキーボードに対して）設定できる項目は以下のとおりです。:

MIDI CHANNEL	キーボードがすべてのMIDIイベントを送信するために使用するMIDIチャンネル。
KNOB MODE	絶対的（Analog Factoryのデフォルトモード、ノブは絶対値を送ります）
	相対的（Analog Factoryとは動作せず、63 以下は負の値で 65 以上は正の値を送信します）
	⚠ *相対的モードでは、アナログプレイヤーと互換性を持ちません。このセッティングは他のMIDIデバイス、またはソフトウェアで使用するときに用います。*
DEFAULT VALUES	このボタンを押すことによってキーボードのすべての工場出荷時セッティングを再ロードします。

8.2.2 独立したコントロールセッティング

キーボードで特定のコントロールを行うために使用するMIDI CC（コントロールチェンジ）を設定します。:

- 任意のコントローラーをクリックすると、選択されたコントローラーは赤く強調されます。そのセッティングは「Selected Control」セクションに自動的に表示されます。
- ドロップダウンリストで任意のラインを選ぶことでこのコントロールに割り当てられるCCナンバーを変更することが可能です。



8.2.3 キーボードにセッティングを保存する。

「Send to Keyboard 」ボタンを押すまで、ユーティリティで行われた変更はキーボードに保存されません。

全体の設定を保存する準備ができたら「Send to Keyboard」ボタンを押してください。

9　ご使用になる前にお読みください。

アートリア “アナログ･プレイヤー” エンドユーザー使用許諾契約書

1 使用許諾
アートリア社はお客様に対し、非独占的な権利として単一のコンピューターで“アナログ･ファクトリー”のプログラム（以下“ソフトウエア”という）を使用する権利を与えます。また、アートリア社は許諾者に非明示的に付与した権利のすべてを留保します。

2 所有権
お客様はソフトウエアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリア社はディスクに記録されたソフトウエアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウエアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウエアそのものを販売するものではありません。

3 著作権
ソフトウエア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウエアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は堅く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

4 使用の制限
お客様は、常に 1 台のコンピューターで使用することを前提として、一時的に別のコンピューターにインストールして使用することができます。お客様はネットワークシステムなどを介した複数のコンピューターに、ソフトウエアをコピーすることはできません。お客様は、ソフトウエアおよびそれに付随する物を複製して再配布、販売等をおこなうことはできません。お客様はソフトウエアもしくはそれに付随する記載物等をもとに、改ざん、修正、リバース･エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、翻訳などをおこなうことはできません。

5 譲渡の制限
お客様はソフトウエアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しにおこなうことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウエアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。

限定保証と免責
限定保証アートリア社は通常の使用下において、購入日より 30 日間、ソフトウエアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウエアのすべての黙示保証についても、購入日より 30 日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

賠償
アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により(a)購入代金の返金(b)ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウエア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウエアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウエアの補償期間は、最初のソフトウエアの補償期間か 30 日間のどちらか長いほうになります。

その他の保証の免責
上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

付随する損害補償の制限
アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(仕事の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があり、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

9.1 FCC INFORMATION (USA)

Important notice: DO NOT MODIFY THE UNIT!

This product, when installed as indicate in the instructions contained in this manual, meets FCC requirement. Modifications not expressly approved by Arturia may avoid your authority, granted by the FCC, to use the product.

IMPORTANT: When connecting this product to accessories and/or another product, use only high quality shielded cables. Cable (s) supplied with this product MUST be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FFC authorization to use this product in the USA.

NOTE: This product has been tested and found to comply with the limit for a Class B Digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide a reasonable protection against harmful interference in a residential environment. This equipment generate, use and radiate radio frequency energy and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interferences harmful to the operation to other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interferences will not occur in all the installations. If this product is found to be the source of interferences, witch can be determined by turning the unit "OFF" and "ON", please try to eliminate the problem by using one of the following measures:

- Relocate either this product or the device that is affected by the interference.
- Use power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter(s).
- In the case of radio or TV interferences, relocate/ reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to coaxial cable.
- If these corrective measures do not bring any satisfied results, please the local retailer authorized to distribute this type of product. If you cannot locate the appropriate retailer, please contact Arturia.

The above statements apply ONLY to those products distributed in the USA.

9.2 CANADA

NOTICE: This class B digital apparatus meets all the requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulation.

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

9.3 EUROPE

CE This product complies with the requirements of European Directive 89/336/EEC